



日本NGO連携無償資金協力 農業開発によるミャンマー 少数民族の所得創出支援 プロジェクト（第1期）

事業成果報告



特定非営利活動法人 グレーターメコンセンター

目次

農業開発によるミャンマー少数民族の所得創出支援プロジェクト（第1期）

1. 人材育成（有機農業技術の普及員育成）

- 1-1 長期研修細評
- 1-2 長期研修カリキュラムと卒業試験結果
- 1-3 参加者属性・修了生アンケート・写真・地図
- 1-4 短期研修細評・内容
- 1-5 参加者属性・アンケート・写真

3. 農業保険体制構築（シードバンク）

- 3-1 シードバンク細評
- 3-2 シードバンク地域別種子集計
- 3-3 シードバンクセミナー受講者アンケート
- 3-4 シードバンク写真

2. 拠点維持運営（安定的な施設運営活動）

- 2-1 施設維持運営活動細評
- 2-2 収支別管理表
- 2-3 生産管理（農作物、畜産）
- 2-4 マーケティング活動（市場調査、ブランド化準備）
- 2-5 付加価値向上活動（農作物加工、作付実験）

4. 僻地開発（サテライト・プロジェクト）

- 4-1 僻地開発活動細評
- 4-2 僻地開発活動参加者アンケート
- 4-3 僻地開発活動実施村別情報
- 4-4 僻地開発活動写真
- 4-5 間接裨益者

事業背景と目的

事業背景

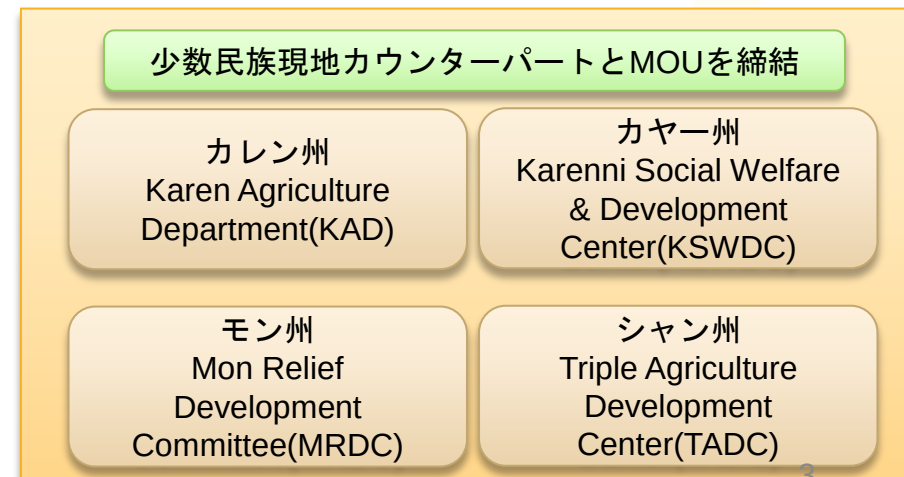
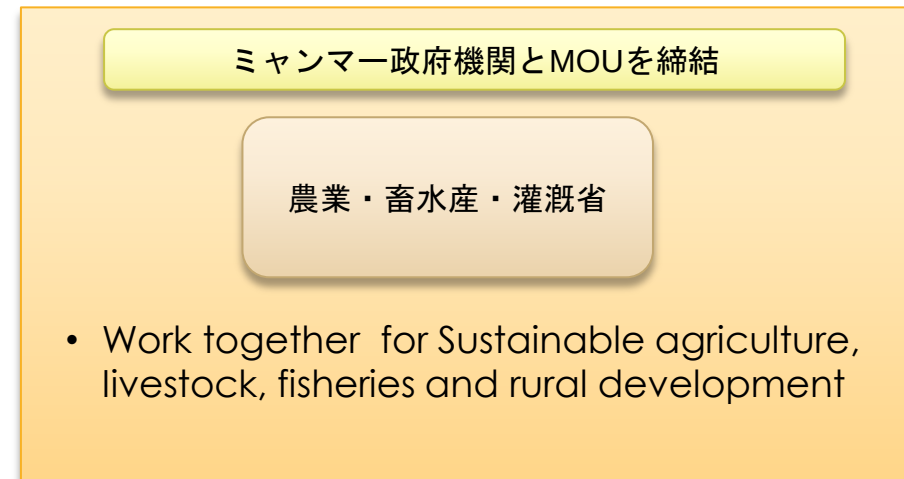
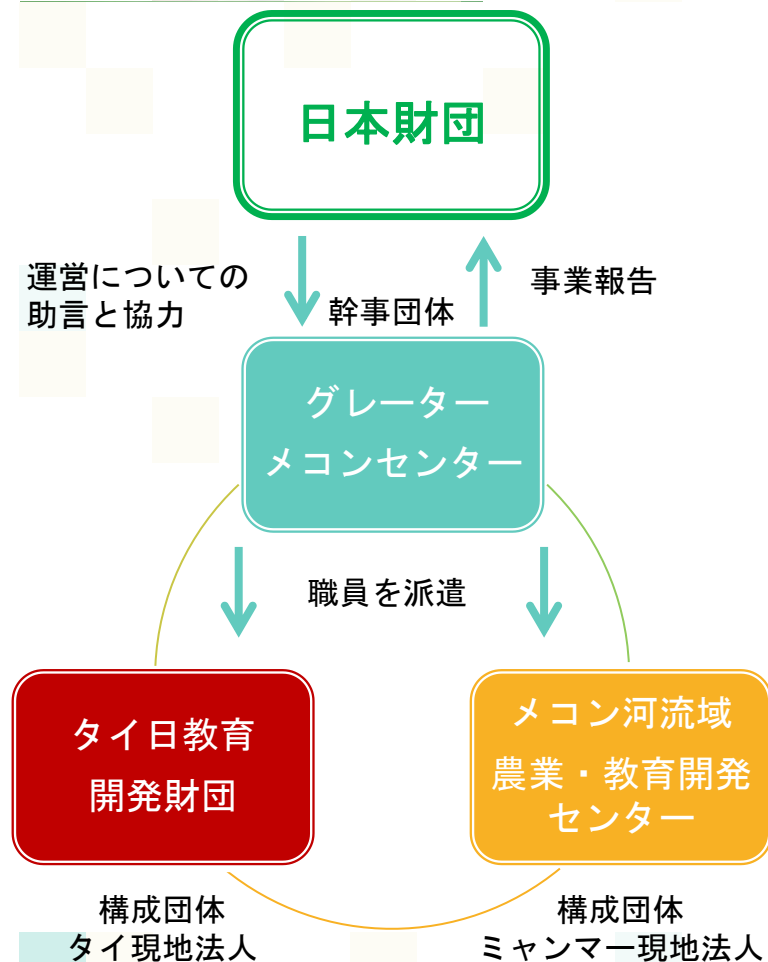
- ミャンマー少数民族地域は奥深い山間部に広がっており、道路や電力等の基礎的インフラが整備されておらず、住民の大半の月額所得は100ドル以下であり、都市部との所得格差が広がっている
- ミャンマーとの国境に位置するタイの9つの難民キャンプには、いまだに計102,553人のミャンマー難民が暮らしており(UNHCR, January 2017)、またミャンマー国内の避難民は把握できてるだけでも100万人以上におよぶ。ミャンマー政府は、この難民帰還対策として、ミャンマー少数民族地域における農産業での雇用創出を掲げている

事業目的

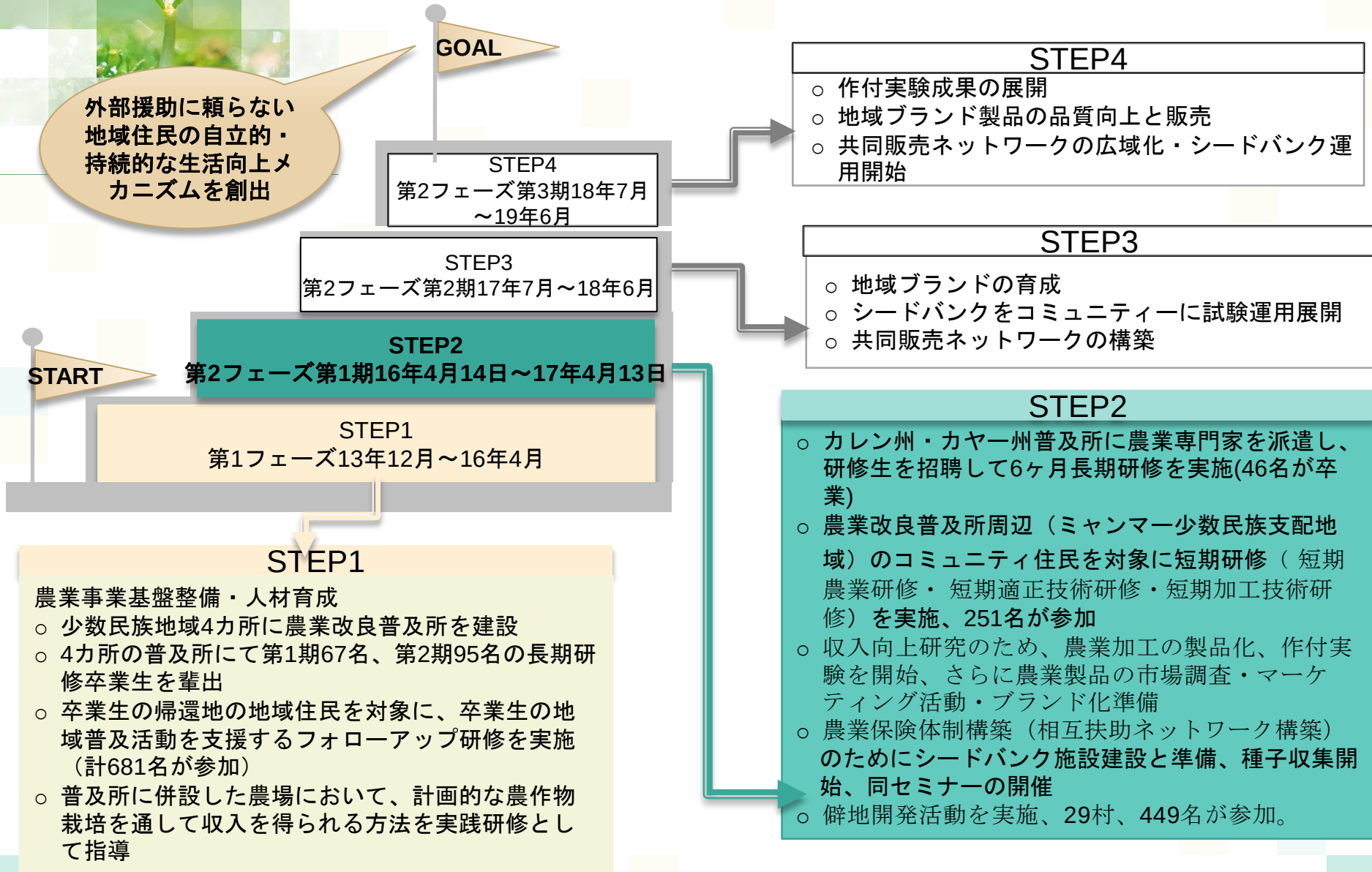
- 化学農業の影響を伝え、少数民族地域の農民の健康と豊かな自然環境を保護する
- 換金作物を含めた農業栽培技術を普及し、農業産業育成を支援することで少数民族地域における自立的・持続可能な発展を図る
- 少数民族地域の生活を安定させ、和平推進の一助とする

事業概要 (1/2)

- ❑ 日本財団とNPOグレーターメコンセンターの間にパートナーシップ協定を締結
- ❑ 三者間でMOUを締結（NPOグレーターメコンセンター、タイ日教育開発財団、メコン河流域農業・教育開発センター）



事業概要 (2/2)



事業内容

長期農業研修

6ヶ月間の長期農業研修（カレン・カヤー州計46名が参加）

短期農業研修

農業改良普及所の周辺住民対象に短期農業研修（計251名が参加）

施設維持運営活動

生産活動、付加価値向上活動により、農業収入による安定的な施設運営活動

農業保険体制（シードバンク）

普及員の育成セミナー、保管施設建設、種子収集、試験貸し付け

僻地開発活動

16地区29村に僻地開発を実施

事業活動の関係性

①少数民族地域全般の裨益者数を増やす為、農業技術を普及する人材を育成

②拠点で換金作物の作付実験等を実施し、少数民族地域と外部社会を繋ぐ窓口の役割を果たす

①人材育成

裨益ターゲット
＝少数民族地域
僻地コミュニティー

②拠点維持運営

③農業保険体制構築

④僻地開発
(サテライト・プロジェクト)

①～③をベース・プロジェクトで実施して、
④僻地開発(サテライト・プロジェクト)を支える

③僻地開発に共通する課題(初期投資、災害時支援)をバックアップする仕組みを構築する(第1期:シードバンク制度)。さらに、地域ブランドを創設(第1期)し、共同販売ネットワークを試験的に展開(第2期)することで、僻地末端のコミュニティーに裨益を生む仕組み作りを行う

目標達成度

人材育成

- ・ 長期研修目標達成度：**92%**（目標値50名に対し終了46名）
- ・ 長期研修最終試験正答率：**90.6%**（46名が卒業基準をクリア）
- ・ 短期研修参加者達成度：**126%**（目標値200名に対し251名）
- ・ 生活改善に有効な知識・技術を取得できたのは**84.9%**（目標値50%に対して、**170%**。終了時アンケートより判断）
- ・ <指標外成果>
他国政府機関や他NGO、国立大学と連携した公的研修の実施

拠点維持運営

- ・ 農業収入による安定的な施設運営活動：農業改良普及所の運営費の**10.5%**（目標値30%に対し達成度**35%**）
- ・ 未達成の要因：タイ国内への販売が困難となり、当初想定した施設運営費のカバー率の目標値を下方修正

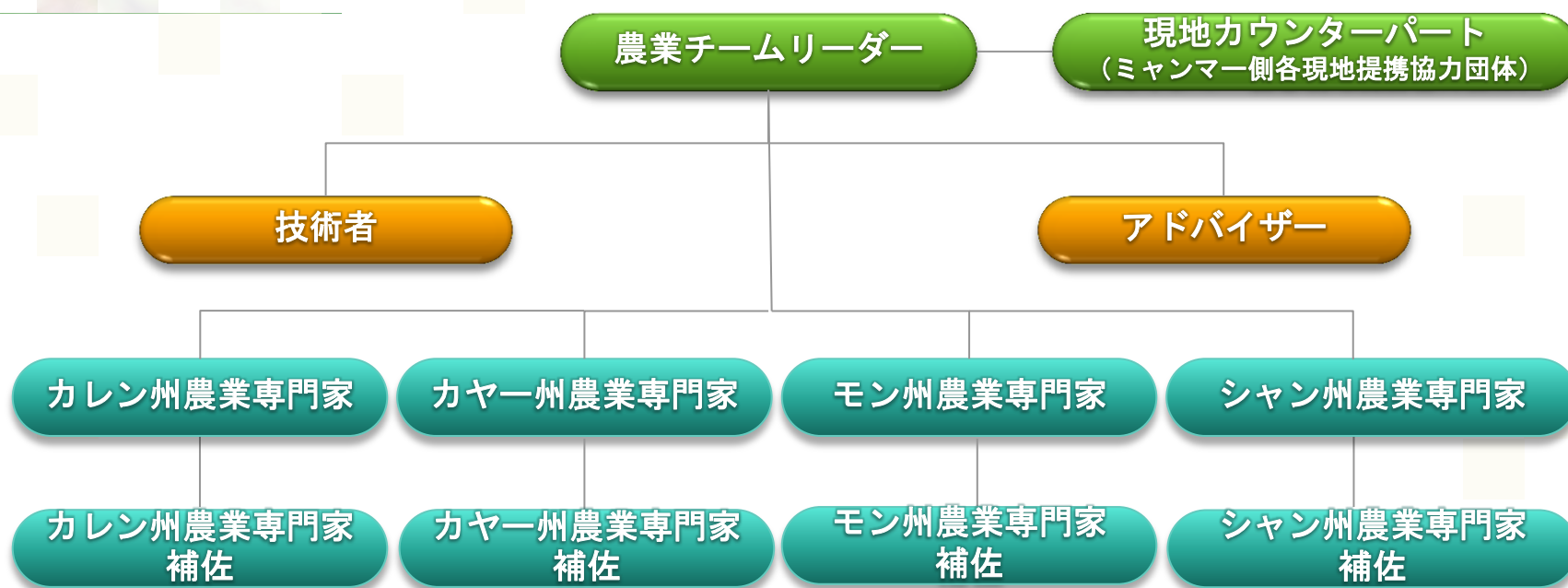
農業保険体制構築

- ・ シードバンク種子保管量達成度：**287.2%**（目標値2.0トンに対し5.74トン保管）
- ・ シードバンクセミナー受講者数達成度：**107%**（目標値30名に対し32名）
- ・ <指標外成果>
シードバンク貸付量：**1.31トン**（2016年11月より、カレン、モン、シャン州にて実証実験のために試験的貸付を開始）

僻地開発

- ・ 対象コミュニティの研修受講生（活動参加者）の生活向上：**86.7%**（目標値参加者の50%以上に対し達成度**173%** ※開始半年後に実施したアンケートにて判断）
- ・ <指標外成果>
研修参加者以外への技術普及、作付実験に成功した作物の普及、土質改良や有機肥料による収量・品質の向上など

事業実施地域（現地）組織図



※農業チームリーダーが主導となり、現地カウンターパート（カレン州・カヤー州・モン州・シャン州各現地提携協力団体）協力の下、現地事業を実施する。4州各農業専門家補佐および現地カウンターパートスタッフに環境保全型自然農法の指導を経験させ、3ヶ年事業終了後、少数民族自身が活動を継続していくことが目的のため、農業チームリーダーおよび農業専門家は、農業研修や農業改良普及所の運営、農業保険体制構築や僻地開発活動を統括し、適宜指導・アドバイスを行う

1-1. 長期農業研修細評

【研修概要】

長期農業研修

- ・参加者合計46名
- ・カレン州・カヤー州にて実施
- ・修了者にはタイ国立大学認定証明書授与

【活動成果】

目的：ミャンマー少数民族地域にて環境保全型農業の指導・普及を行う農業リーダーを育成する

講師：農業専門家補佐やカウンターパートスタッフが指導

協力者：IRC（国際救援委員会）、USAID（アメリカ合衆国国際開発庁：IRCへの資金提供とモニタリング）、タイ国立コーンケン大学（人文社会学部）、タイ国立マハサラコン大学（環境資源学部）

特別講師：タイ国立大学認定研修カリキュラムはタイ国立大学の教授（僻地開発学）が担当

修了生数：46人（カレン州：20人、カヤー州：26人、最終試験平均点90.6%）が卒業

タイ大学認定研修コース：コミュニティー開発のためのアプローチとツール（60時間）、持続可能な自然資源管理（120時間）、応用方法（60時間）の計240時間におよぶカリキュラム終了後、タイ国立大学認定の研修修了証明書を授与

研修の質向上：他国政府機関や他のNGO、国立大学と連携し、共同実施を行ったことで、先行事業と比較しても非常に質の高い研修を提供することが可能となった



カレン州終了
証明書



カヤー州終了
証明書

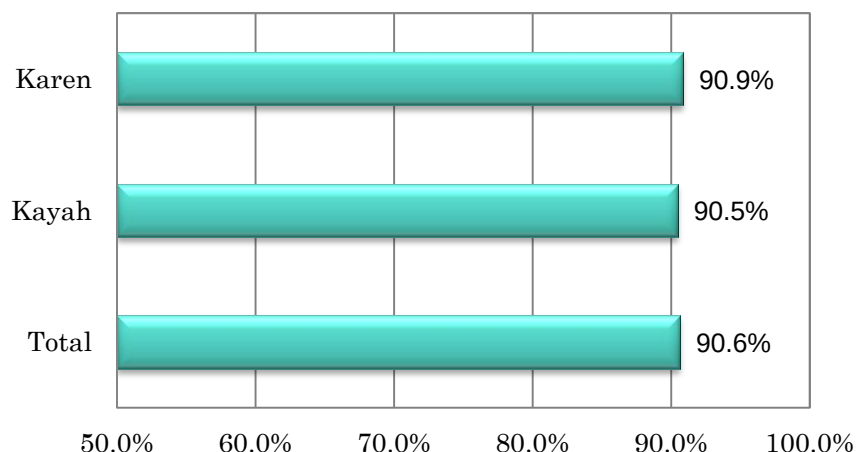
1-2.長期研修カリキュラムと卒業試験結果

指導カリキュラム

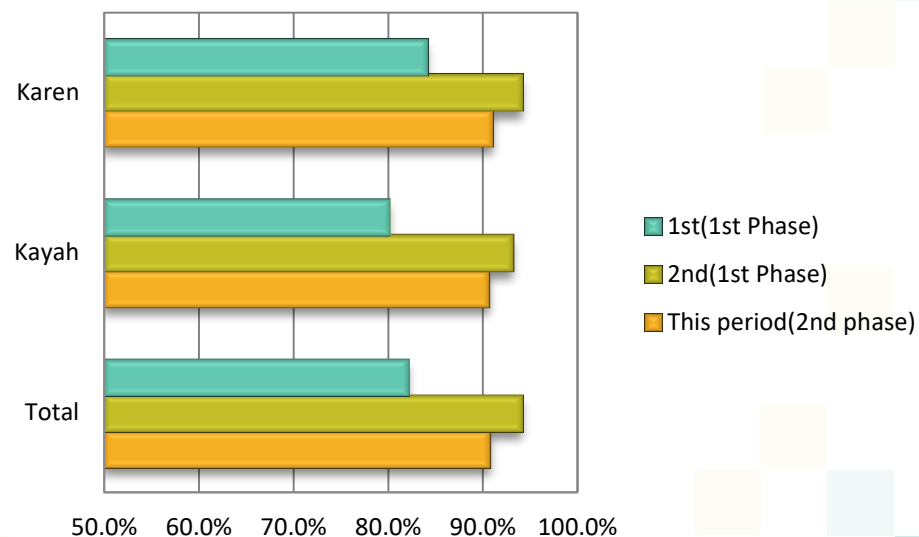
Chapter 1 :	The Vicious Cycle of Chemical Agriculture
Chapter 2 :	The Ecosystem and Nutrients Cycle
Chapter 3 :	The Principles of Ecological Farming
Chapter 4 :	Soil and Water
Chapter 5 :	Soil Conservation and Fertilization
Chapter 6 :	Cropping System
Chapter 7 :	Pest Management
Chapter 8 :	Self-Seed Production
Chapter 9 :	Plant Propagation
Chapter 10 :	Farm Designing

Chapter 11 :	Appropriate Technologies
Chapter 12 :	Mushroom Cultivation
Chapter 13 :	Food Preservation and Food Processing
Chapter 14 :	Extension Work and Community Development
Chapter 15 :	Teamwork and Team Building
Chapter 16 :	Alternative Marketing
Chapter 17 :	Multimedia Production and photographing technics
Chapter 18 :	Proposal and Report writing

今期卒業試験結果（正答率）



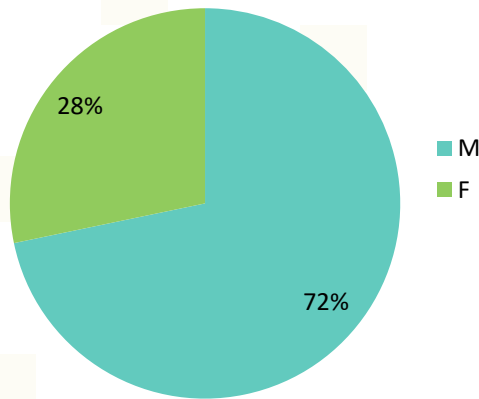
先行事業（第1フェーズ第1期・2期生）との卒業試験正答率比較



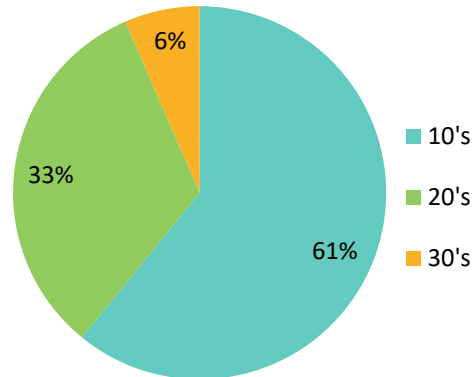
1-3-1. 長期農業研修参加者属性

長期研修参加者46人（カレン州20人、カヤー州26人）
の属性

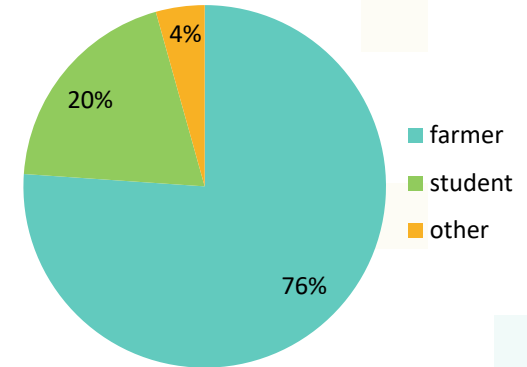
Gender



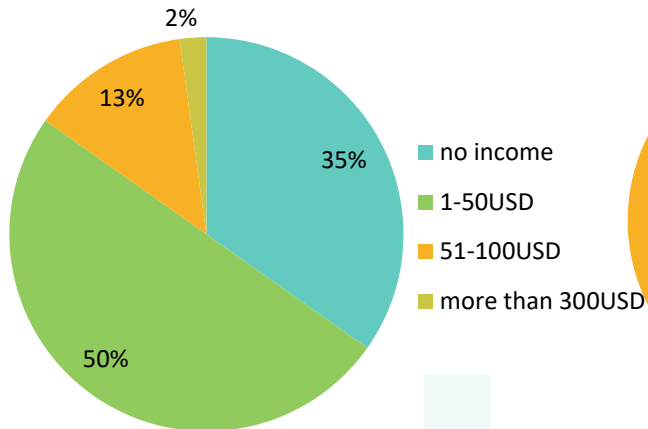
Age range



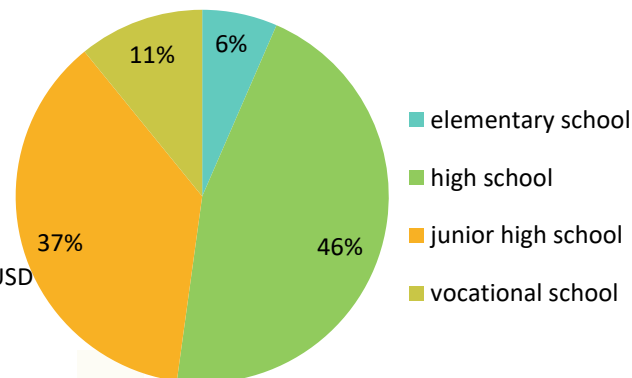
Occupation



Monthly income



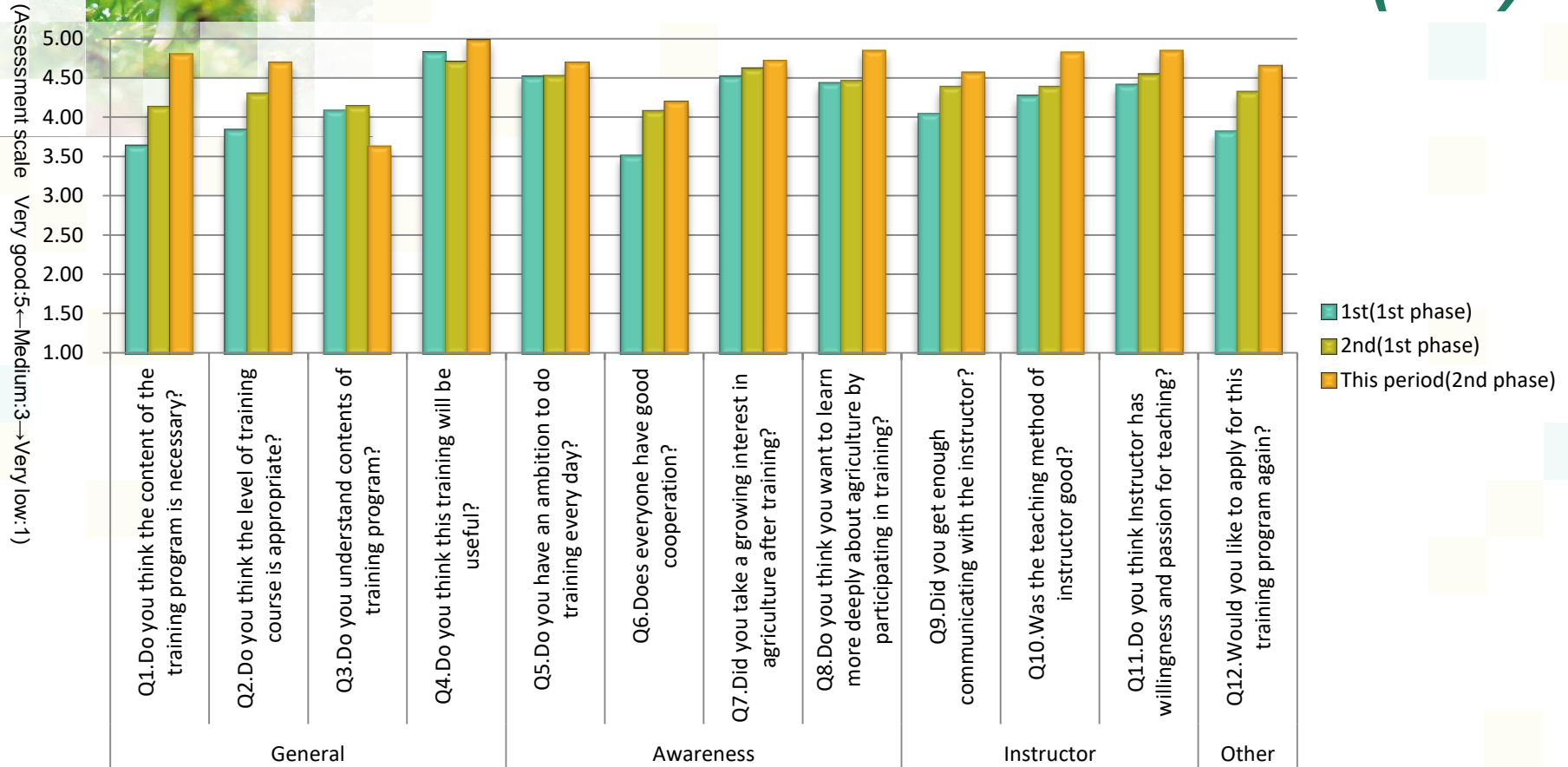
Education background



総評：

少数民族山間部僻地に
住む、同地域の次世代
を担う10-20代の若い
学生や農民を中心に招
聘し、研修を行ったこ
とで、研修後、彼らが
主導となり（人材育
成）、帰還地域への環
境保全型自然農法伝播
の効果을期待できる

1-3-2. 長期農業研修アンケート結果 (1/2)



※長期農業研修卒業生のアンケートを前フェーズ第1期・第2期と今期で比較した。全般（Q1-4）・意識（Q5-8）・指導員（Q9-Q11）・その他（Q12）の項目で平均値を比較すると、全般（前フェーズ第1期4.09・第2期4.31、今期4.53）、意識（前フェーズ第1期4.24・第2期4.41、今期4.61）、指導員（前フェーズ第1期4.24・第2期4.43、今期4.75）その他（前フェーズ第1期3.82・第2期4.32、今期4.65）と、前2回長期農業研修よりそれぞれの項目で評価・満足度に向上が見られる

1-3-3. 長期農業研修アンケート結果 (2/2)

参加者の声

研修で得たこと・今後への活用

1. かつては自然農法は無駄なことだと信じていたが、この研修を通して素晴らしい可能性を見つけたことができた。だから研修後も継続して実践したい（カレン州）
2. 様々な有機肥料（IMO、TMO、ボカシ）を実践で作ることができたので、故郷で様々な人に伝えたい（カレン州）
3. 長い目で見れば、自然農法の方が化学農業よりもずっと良いことがわかった（カヤー州）
4. 自然農業の理論や技術を実践を交えながら勉強できたので、非常に効率的に身に付けることができた（カヤー州）
5. この研修に参加するまで、化学農業の悪影響というものを考えもつかなかった（カヤー州）
6. 地元のコミュニティの開発活動をする自信がついたので、是非実践したい（カレン州）
7. もっと自然農業を練習し、たくさんの人にこの方法を伝えたい（カレン州）
8. 自分が満足するまで、ここで学んだことを故郷でも実践していこうと思う（カヤー州）

意見・感想・要望

1. 化学農業がどんどん広がっている地域では、この研修の内容はとても役に立つものだと思う（カレン州）
2. 自然農法は外部依存なし（＝種や農薬、肥料を購入しなくてもよい）でも実践できるとても良いものである（カレン州）
3. 今後に向け、研修はより効果的なものへと発展させていってほしい（カレン州）
4. この研修から将来生きていくための多くのことを学んだ（カヤー州）
5. 先生達はとても優しく親切で、自分たちの世話をよくしてくれた（カヤー州）
6. それぞれ異なった指導内容を、粘り強く丁寧に説明してくれた先生達に感謝を伝えたい（カヤー州）
7. 研修に必要なもの全てを提供してくれて、とても感謝している。そのおかげで自分は何も問題なく研修を受けることができた（カヤー州）
8. もしまたこうした研修の機会があるなら、是非参加したい（カヤー州）

1-3-4. 長期農業研修写真

長期研修・カレン州



長期研修修了式（カレン州）



アメリカ合衆国国際開発庁/IRC
による講義（カレン州）



ヤンゴンへのスタディーツアー
（カレン州）

長期研修・カヤー州



長期研修修了式（カヤー州）



Thomas農業博士
(USAID/IRC)による講義（カ
ヤー州）



きのこ農家へのスタディーツアー
（カヤー州）

指導員研修（TOT研修）・カレン州



TOT研修（カレン州）

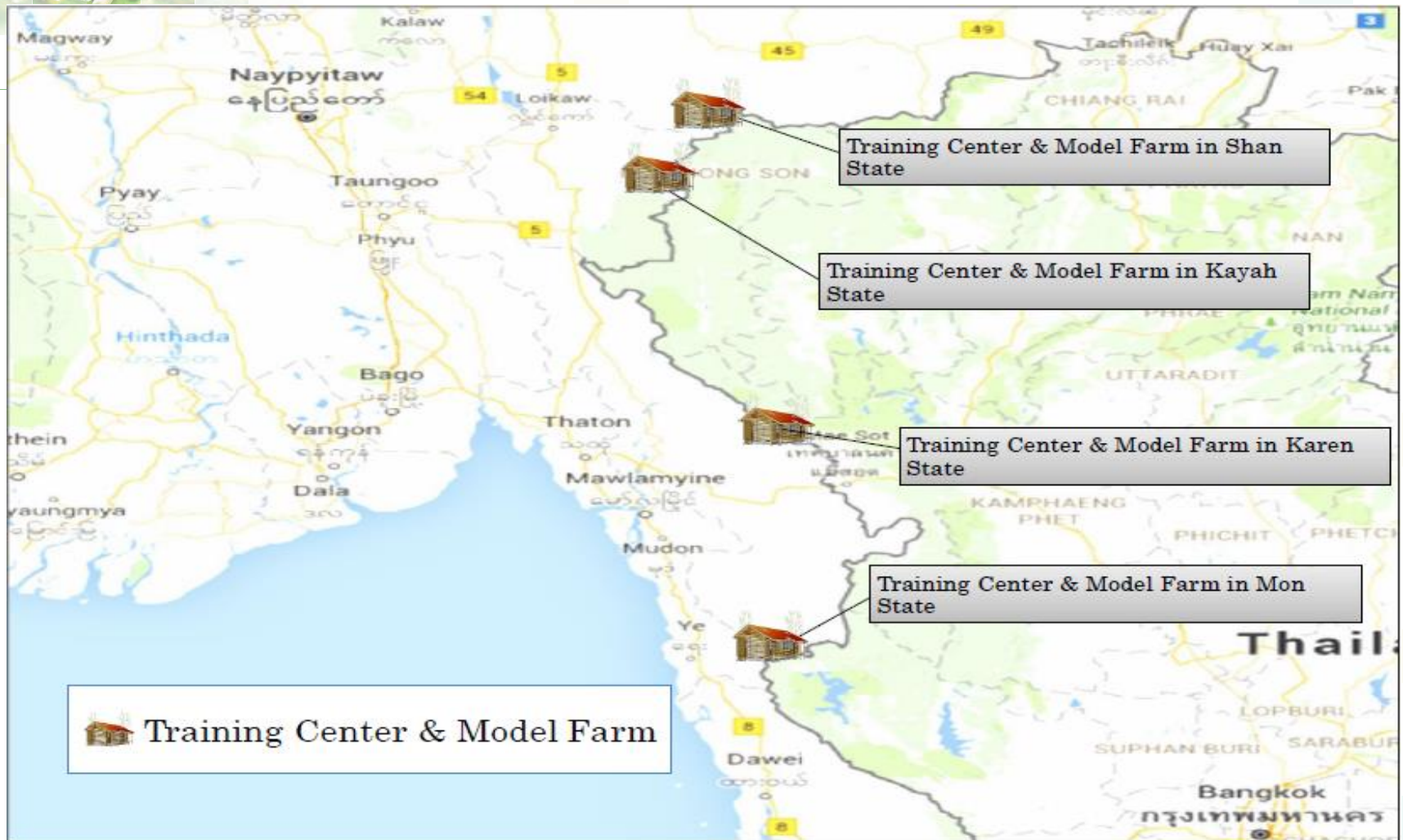


TOT研修・来年度の詳細な活動計画
策定（カレン州）



TOT研修・政治状況等の情報共有
（カレン州）

1-3-5. 農業改良普及所 & モデル農場地図 (カレン・カヤー・モン・シャン州)



1-4-1. 短期研修細評

【研修概要】

目的：環境保全型自然農法に興味があるものの、長期間の研修に参加できない住民に対し、地域のニーズに沿ってテーマを絞り、短期間で実践的な研修を提供する

対象：農業改良普及所周辺（ミャンマー少数民族民族支配地域）のコミュニティー住民

講師：農業専門家補佐やカウンターパートスタッフが指導

短期研修

- ・参加者合計**251**名
- ・**3**州で実施
(カレン・モン・シャン州)
- ・短期有機農業研修
- ・短期適正技術研修
- ・短期加工技術研修

【活動成果】

成果指標：短期研修を通して、コミュニティー住民の半数以上の生活が向上していると実感（アンケートより）

参加数：251人（農業：122人、適正技術：57人、加工技術：72人）

アンケート：参加者の**84.9%**が生活向上のための知識や技術を得ることができたと回答

1-4-2. 短期研修内容

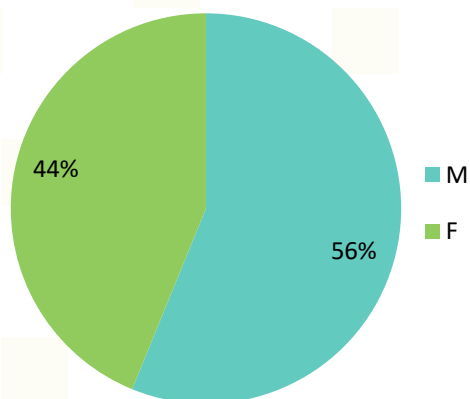
州	研修内容	指導内容	参加者数	実施日 (年度)
カレン州	短期農業研修	座学：環境保全型農業概論、土質改良、害虫管理、計画栽培 実習：有機肥料試作、植物繁殖法、キノコ栽培	30	1/14 ~ 1/18 (2017年)
	短期適正技術研修	座学：エンジン・ソーラーシステムの仕組み 実習：バイクエンジン修理、ソーラーパネル修理	15	1/3 ~ 1/5 (2017年)
	短期加工技術研修	座学：食品加工・衛生用品加工の工程説明 実習：ローゼルジュース試作、自家製食器用洗剤・ハーブ洗剤試作	30	1/19 ~ 1/21 (2017年)
モン州	短期農業研修	座学：環境保全型農業概論、土質改良、害虫管理、計画栽培 実習：有機肥料試作、天然害虫駆除剤試作、近隣への農場視察	26	6/8 ~ 6/11 (2016年)
	短期適正技術研修	座学：エンジン・ソーラーシステムの仕組み 実習：エンジン修理、ピストン固定方法、ソーラーパネル修理	22	12/8 ~ 12/12 (2016年)
	短期加工技術研修	座学：食品加工・衛生用品加工の工程説明 実習：発酵米、自家製洗剤、自家製鎮痛剤	22	12/19 ~ 12/23 (2016年)
シヤン州	第1回短期農業研修	座学：環境保全型農業概論、土質改良、害虫管理、種子自家生産 実習：有機肥料試作、天然害虫駆除剤試作、植物繁殖法	49	7/11 ~ 7/15 (2016年)
	第2回短期農業研修	座学：環境保全型農業概論、土質改良、害虫管理、農場計画 実習：有機肥料試作、天然害虫駆除剤試作、洗剤試作	17	8/27 ~ 8/31 (2016年)
	短期適正技術研修	座学：エンジンの仕組み 実習：エンジン修理、ピストン固定方法、発電機転用方法	20	10/21 ~ 10/25 (2016年)
	短期加工技術研修	座学：茶葉加工・保存食品加工の工程説明 実習：発酵茶の試作、有機野菜のピクルス試作	20	10/27 ~ 11/2 (2016年)

1-5-1. 短期研修参加者属性

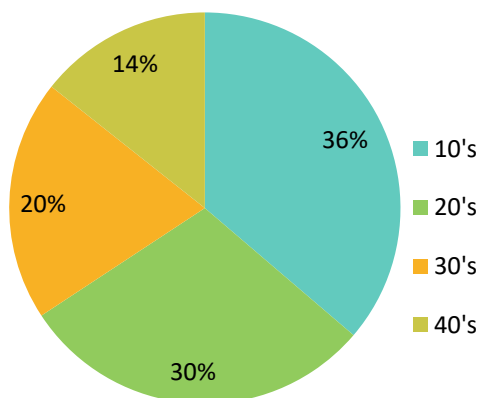
短期研修参加者251人

(農業122人、適正技術57人、加工技術72人)の属性

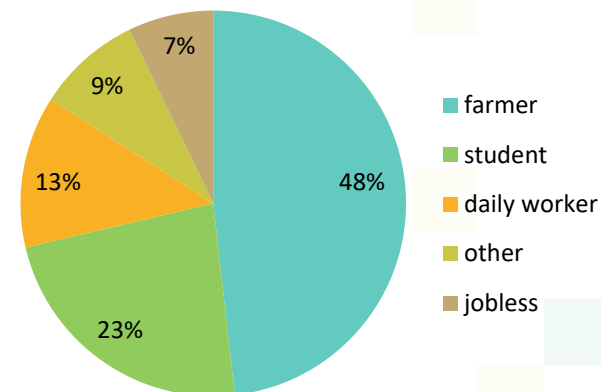
Gender



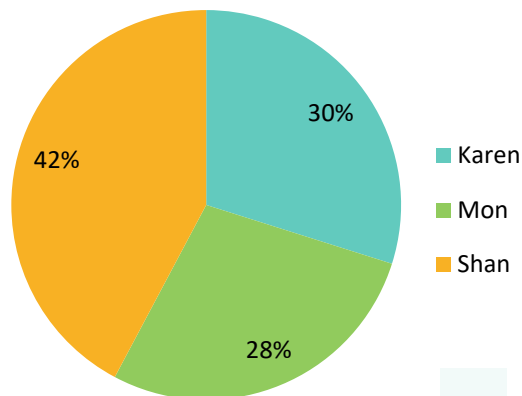
Age range



Occupation



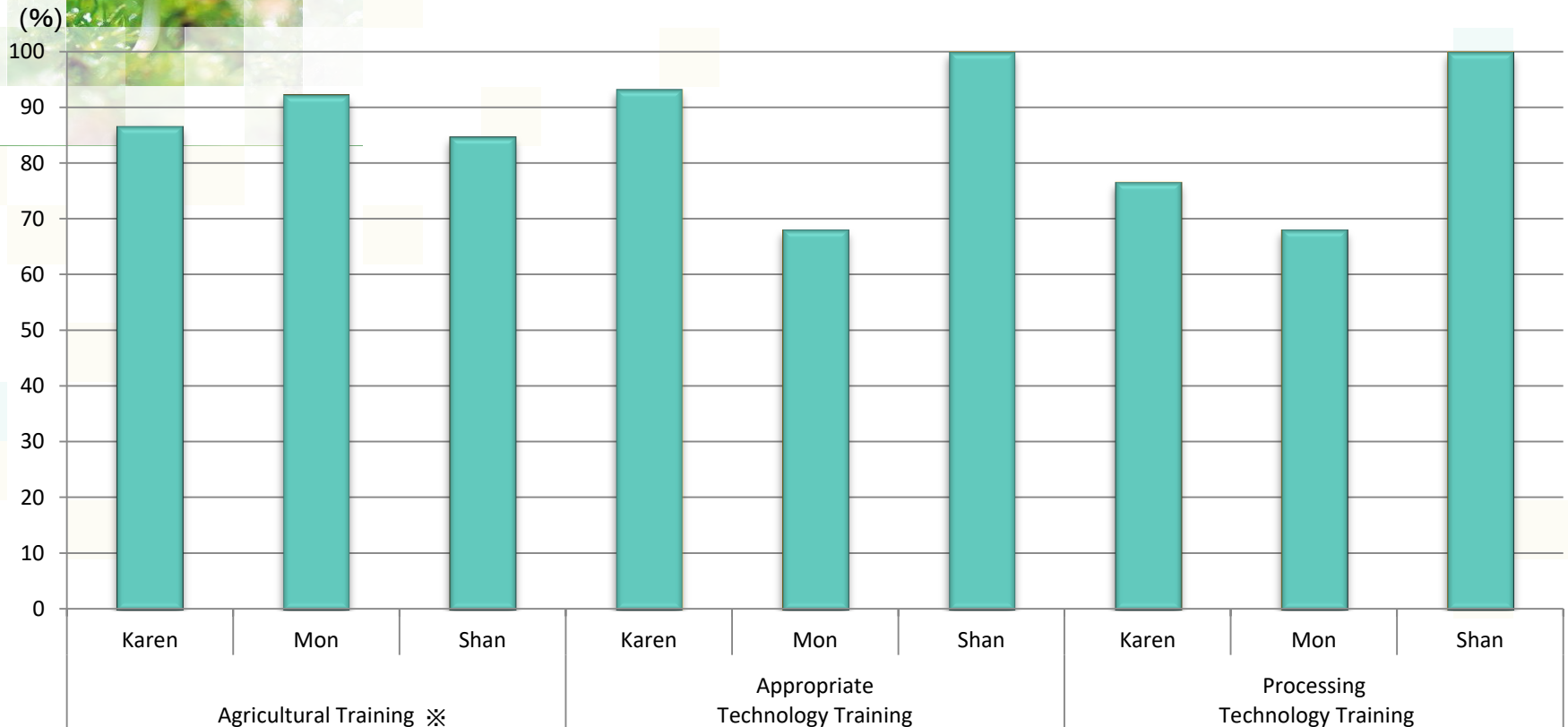
Area



総評：

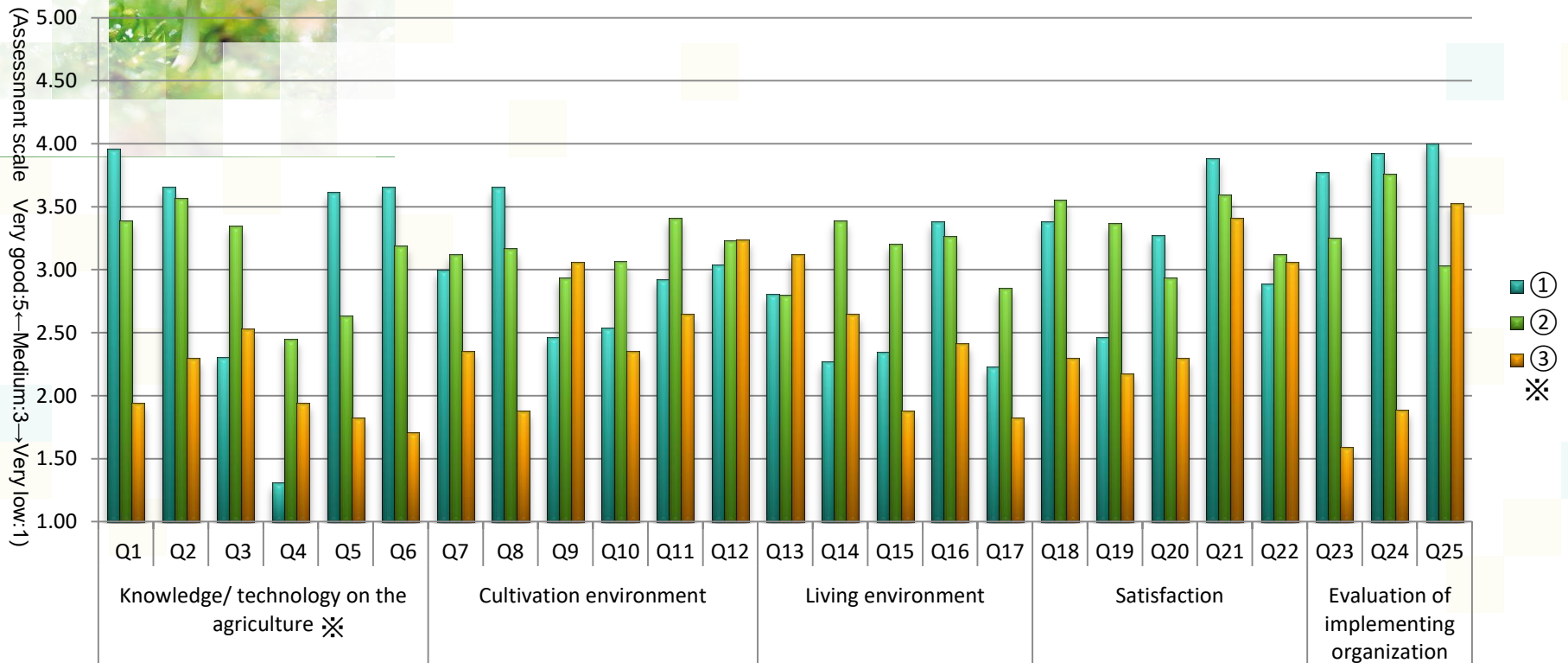
若い学生や農民のみでなく、他業務従事者や日雇い労働者、無職者、普段家事を担うため長期研修への参加が難しい女性など幅広い層から参加を促し、地域のニーズに沿った実践的な研修を実施することで、人材の育成のみでなく、少数民族地域の山間部僻地に居住する人々に向けて、生活環境の向上に寄与する研修を行うことができた

1-5-2. 短期研修アンケート(1/2)



※カレン州・モン州・シャン州で実施された短期農業研修・短期適正技術研修・短期加工技術研修の参加者計251名に対し、「受講した研修で生活改善のための知識や技術を得ることができたか？」という質問アンケートを4段階スコアリング形式（4：とてもできた⇔1全くできなかった）にて実施し、合計231名（参加者合計数に対して84.9%）が各種短期研修参加により、生活改善達成が期待できる（3か4と回答）と回答した

1-5-3. 短期研修アンケート(2/2)



※短期農業研修参加者（モン州①・シャン州②および③）を対象に、所属する地域生活の基礎情報収集と、研修の評価について5段階スコアリング形式（5：とても良い⇔1悪い）アンケートを実施

基礎情報：知識/技術（Q1～Q6、農薬の危険性や資源活用法の知識の有無など。平均値2.74）栽培環境（Q7～Q12、地域の農業環境の充実度など。平均値2.89）、生活環境（Q13～Q17、貯蓄の有無や労働環境など。平均値2.70）、満足度（Q18～Q22、地域コミュニティや、現在の生活に満足しているかなど。平均値3.05）→地域生活基礎情報（Q1-Q22）の平均値2.84より、短期研修参加者の大半が現在の生活・農業および労働環境・コミュニティなどに対して改善を望んでいる結果となっている

研修の評価：実施団体への評価（Q23～Q25、本研修の満足度など。平均値3.19）

1-5-4. 短期研修写真

短期研修・カレン州



果樹の接木実習（農業）



ろ過装置の設置実習（適正技術）



菓子用米粉砕実習（加工技術）

短期研修・モン州



参加者（農業）



環境配慮型農業講義（農業）



ハーブ薬の試作実習
（加工技術）

短期研修・シャン州



有機肥料試作実習（農業）



環境保全についての講義（農業）



ピクルス試作実習（加工技術）

2-1.施設維持運営活動細評

【活動概要】

施設維持運営活動

- ・ 生産活動
- ・ 付加価値向上活動
- ・ 4州販売収益194,499THB
- ・ 運営費カバー率10.5%

【活動成果】

目的：事業終了後、外部支援に頼らず、カウンターパート、及び少数民族が活動を継続していくための資金的財政的自立を段階的に達成する

生産活動：①栽培作物（有機農作物、繊維系換金作物、高換金作物）②農業加工品（製紙、製糸、食品加工）③畜産（豚・アヒルの繁殖、魚の養殖）

付加価値向上活動：①農業加工の製品化、作付実験②市場調査調査、マーケティング活動③ブランド化準備

運営費カバー率： $194,499\text{THB}(4\text{州販売収益}) \div 1,846,412\text{THB}(4\text{州運営支出額}) = 10.5\%$ （目標カバー率30%は未達成）

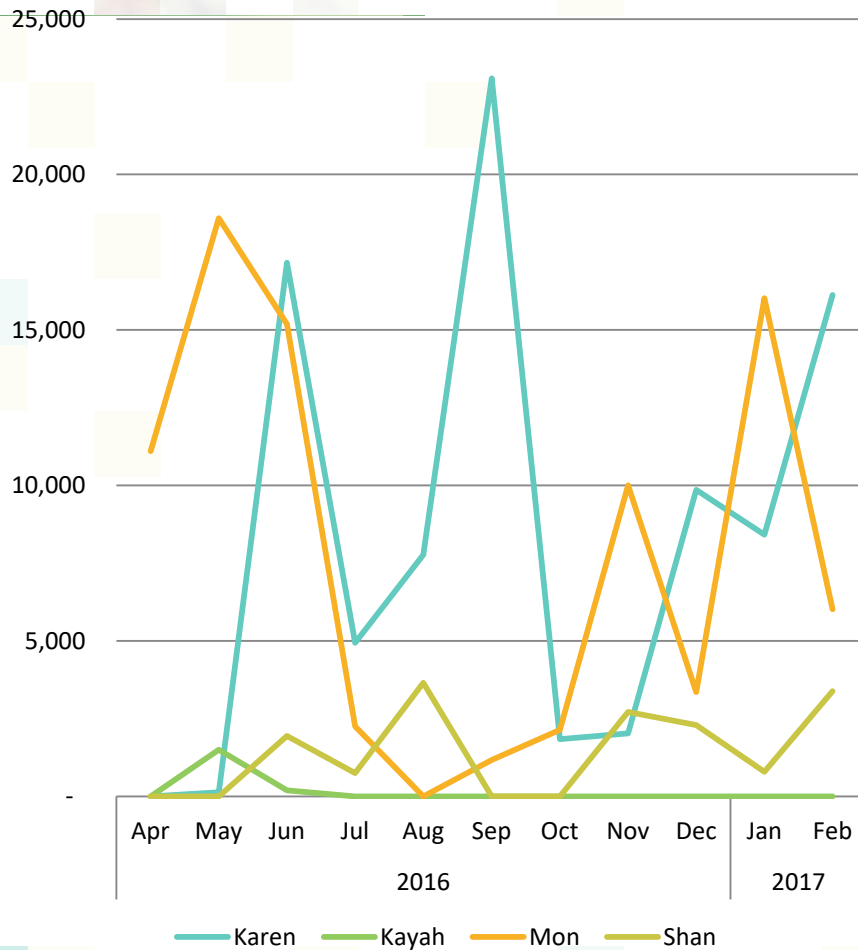
未達成要因：タイ国内への販売が困難となったため（ミャンマー側のマーケティングを実施中）

その他活動成果：徐々に軌道に乗ってきているモン州の畜産活動のモデルを、2期よりシャン州でも展開する。作付実験で7種の換金作物が成功し、今後コミュニティーの要望に合致すれば普及を行う

2-2-1. 月別収入・支出額グラフ

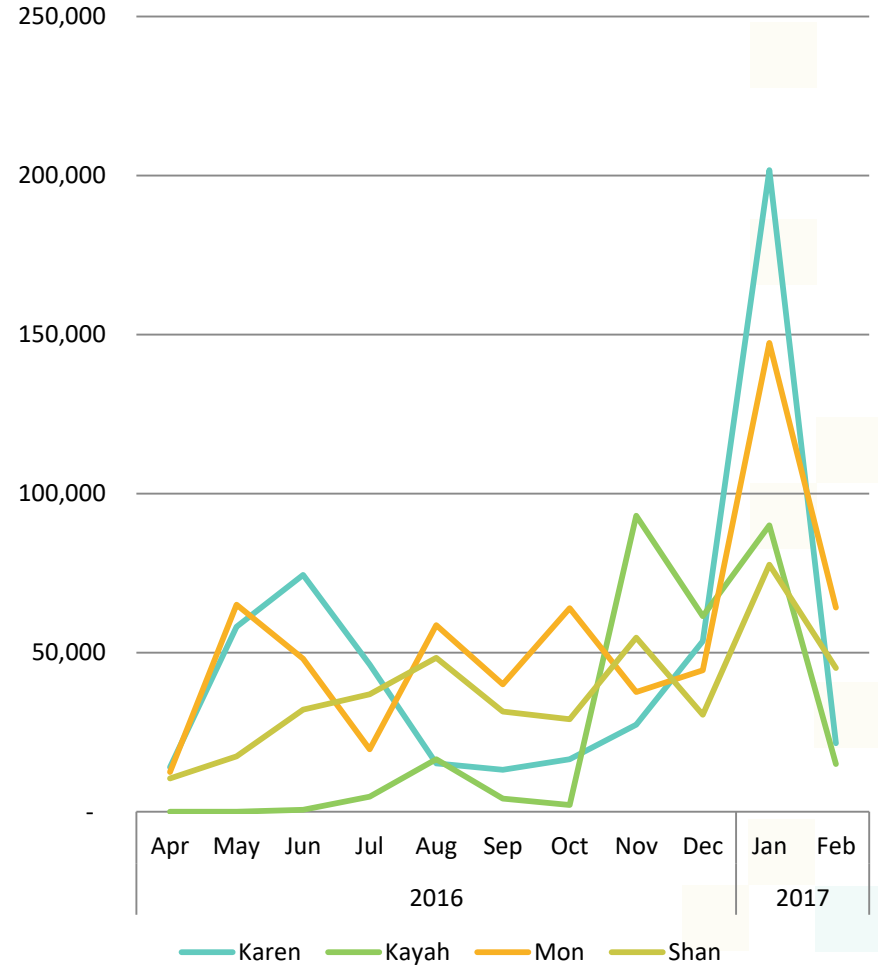
4州・月別収入実績 (THB)

(THB)

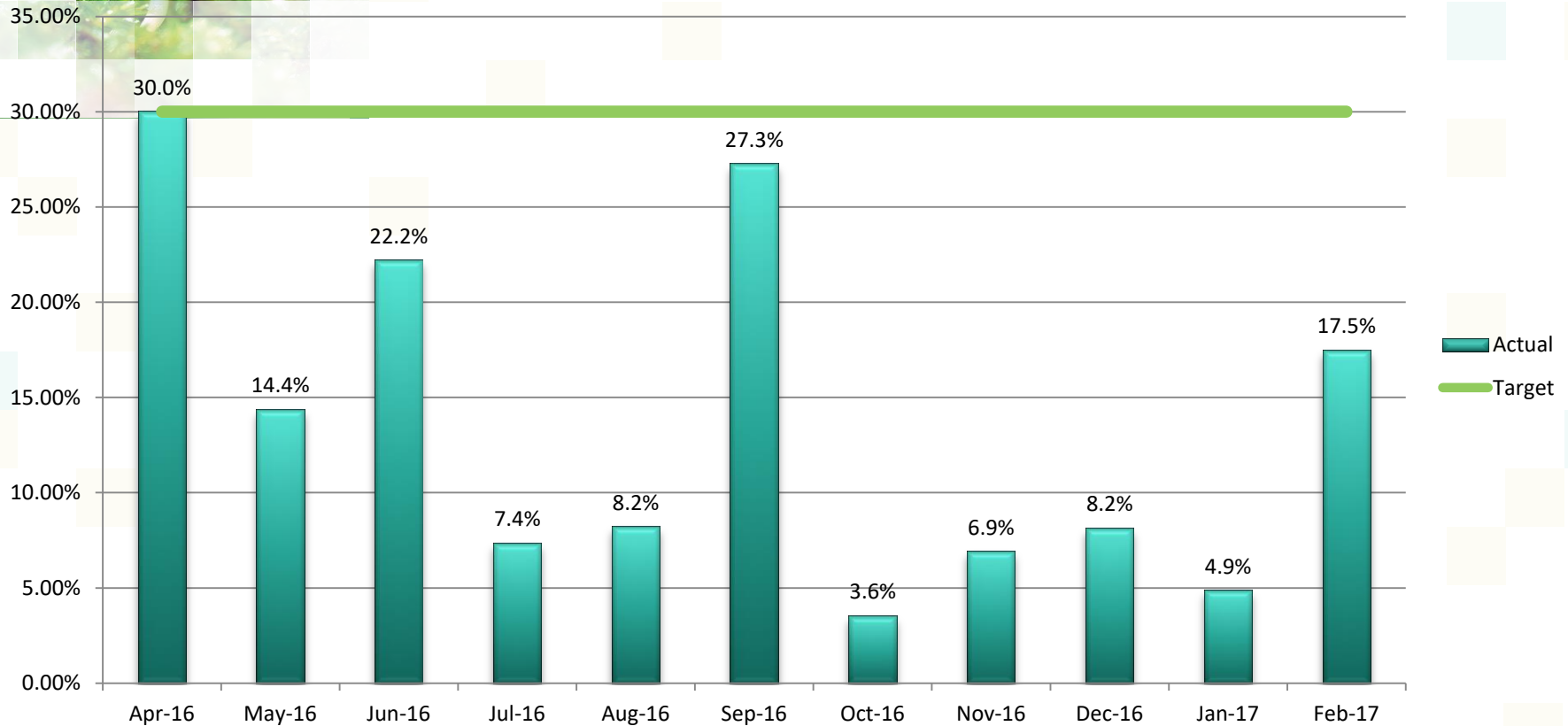


4州・月別支出額 (THB)

(THB)



2-2-2. 運営費カバー率



※運営費カバー率算定時の運営支出額は、研修材料費、研修生旅費、技術者旅費、畜産運営費用、消耗品、農場日雇い労働者、農場維持費、農具等保管・運送費を施設運営費として計上

2-3.生産管理(生産量)

	農地(Acre)	農産物(kg)	加工品(kg)	種子(kg)
カレン州	7.2	3,395	1,423	17
カヤー州	1.2	5,292	3,959	82
モン州	12	2,335	-	3
シャン州	4.8	932	2,323	1,942
合計	25.2	11,954	7,705	2,044

01 販売収益・生産量

- ・4州12ヶ月合計で194,499THB
- ・運営費カバー率は10.5%
- ・4州の農産物・加工品・種子生産量は合計21,703kg

02 目標達成率

- ・申請時の目標運営費カバー率は30% :達成率 35 %

03 販売農（畜）産物

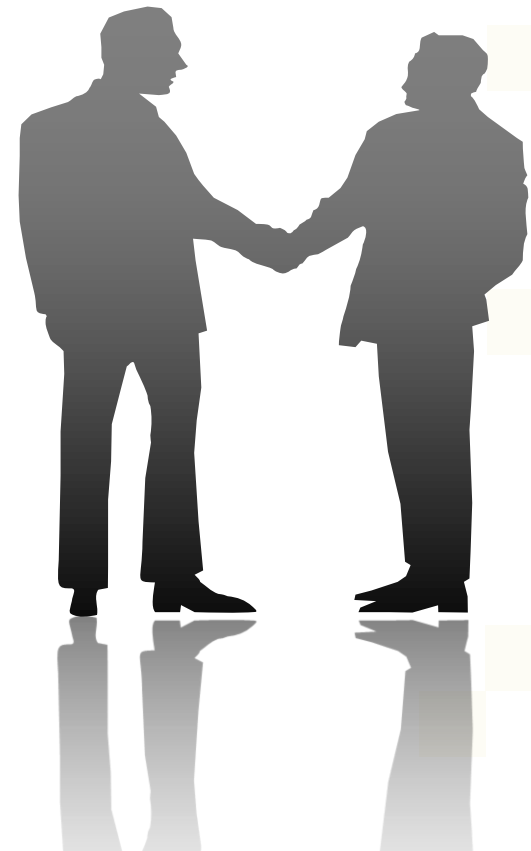
- ・米・豆類等の有機作物、ぼかし等の有機肥料、豚・アヒルなどの畜産物、ウコン粉末やゴマ油などの加工品等

04 課題

- ・高付加価値商品開発、モン州の畜産モデルを他州でも展開し、収入の向上を図る、作付に成功した換金作物の普及

2-4. マーケティング活動

カウンターパート・地域住民と共同で運用を行い、地域ブランドを設立することで、商品付加価値の向上を目指す



2-5. 付加価値向上商品例

カレン州・ごま油



原料は広い地域で栽培が可能で、マーケット価格も比較的高い。

カレン州・玄米



栽培が容易で、真パック加工も容易。

カレン州・ボカシ



原材料の調達がこの地域で容易。近隣住民の需要も高い。

シャン州・お茶



シャン州で広く栽培。有機製品は価値が高い。

カヤー/シャン州・チアシード



マーケット価格が高く、近年タイでも人気が出ている。

カレン/シャン州・楮



自生しており、市場もあり。

カレン/モン州・綿花



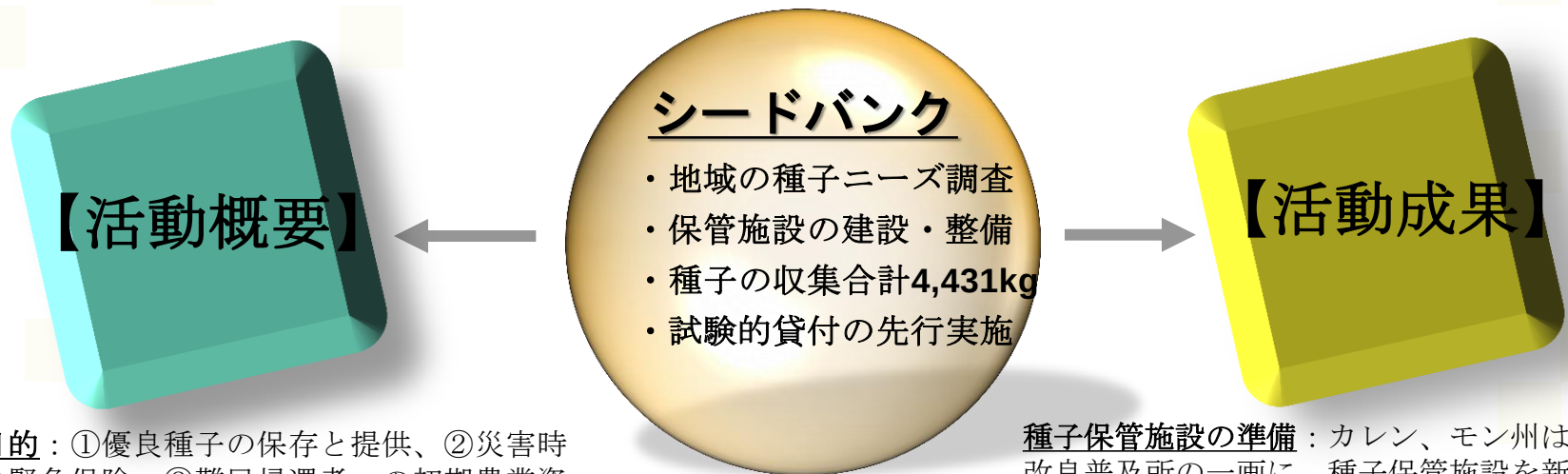
マーケット価値高く、土壌との相性も良し。

全州・かぼちゃ (日本)



マーケット需要あり、気候の相性も良し。

3-1. 農業保険体制（シードバンク） 細評



目的：①優良種子の保存と提供、②災害時の緊急保険、③難民帰還者への初期農業資本の提供

運用方法：種子の貸付をコミュニティーへの連帯責任とし、年利10%の利息を元本に上乗せする返還義務を課す

運用主体：カウンターパート主体で実施。種子貸付選定や回収はカウンターパートが担当し、幣団体は適宜アドバイスを行う

種子保管施設の準備：カレン、モン州は農業改良普及所の一面に、種子保管施設を新設した。カヤー、シャン州は既存の農業改良普及所の一面を活用、電気系統を設置して種子保管施設として準備した

収集種子：カレン州（米、こんにゃく、バナナ、うこん等）、カヤー州（米、チアシード、とうもろこし等）、モン州（米、こんにゃく、かぼちゃ、パパイア等）、シャン州（米、チアシード、かぼちゃ等）

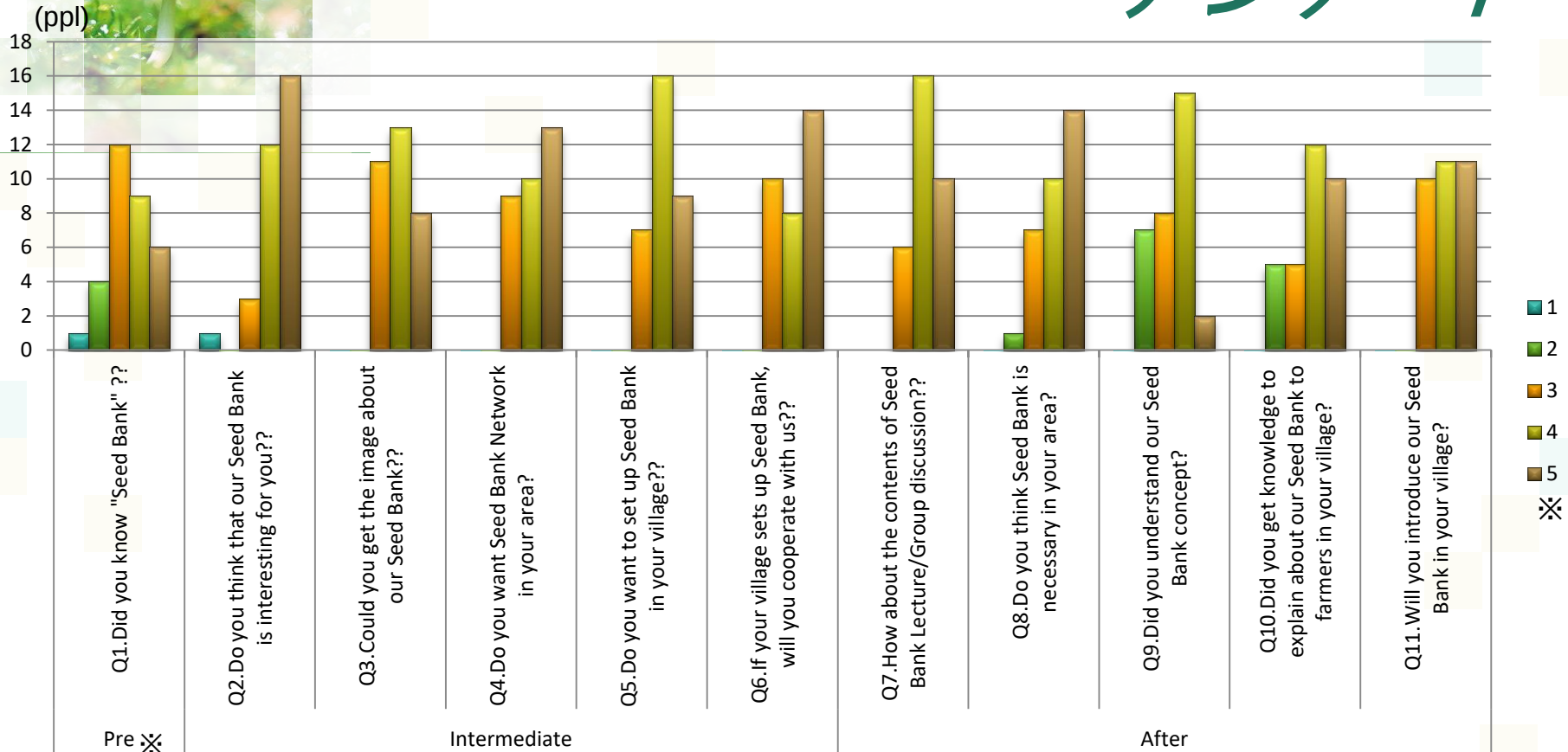
3-2. シードバンク地域別種子集計

【地域別シードバンク種子集計表】

	Collect	Lend※	Return	Loss	Stock	Un-return
Unit(kg)	A	B	C	D	E=A+C-B-D	F=B-C-D
Center						
Karen	2369.7	899.8	0	0	1469.9	899.8
Kayah	81.7	0	0	0	81.7	0
Mon	893.2	0	0	0	893.2	0
Shan	679	13	13.1	0	679.1	-0.1
Center Total	4023.6	912.8	13.1	0	3123.9	899.7
Community						
Karen	400	400	200	0	200	200
Kayah	0	0	0	0	0	0
Mon	8	0	0	0	8	0
Shan	0	0	0	0	0	0
Community Total	408	400	200	0	208	200
Grand Total	4431.6	1312.8	213.1	0	3331.9	1099.7

※4州で計4431.6kgの種子を収集。さらに、シードバンクを運用させ、地域に定着させるには、多くの事例経験が不可欠なため、試験的貸付をカレン州（16年5月開始）、シャン州（16年6月開始）にて先行実施、今後もさらに試験的に運用を展開した後、シードバンク運用を本格化していく

3-3. シードバンクセミナー アンケート



※シードバンクセミナー受講者32名に対して、受講の理解度を計るため、セミナー受講前(Pre)と受講中(Intermediate)、受講後(After)に、それぞれ5段階スコアリング形式(5:とても高い⇔1低い)にて、アンケートを実施。シードバンク受講前は32名中17名が“シードバンクを全く知らない～少し知っている程度と”回答(Q1につきスコア1～3の回答者数)したが、シードバンク受講中は32名全員が自身のコミュニティにシードバンクを導入することについて、“現段階で導入は分からないが、興味はある～導入に非常に興味がある”と回答(Q5につきスコア3～5の回答者数)、受講後アンケートではセミナー受講者32名中27名が“シードバンクについて村人に部分的に説明できる～十分説明できる”と回答(Q10につきスコア3～5の回答者数)し、受講を通じ、参加者のシードバンクへの関心と理解を十分引き出すに至ったと言える

3-4. シードバンク写真



シードバンク



シードバンクによるゴマ支援



シードバンク施設の床建設



シードバンク種子サンプル



シードバンク保管施設



保管施設内電気システムの設置



チアシードの収集作業



シードバンク用種子収集

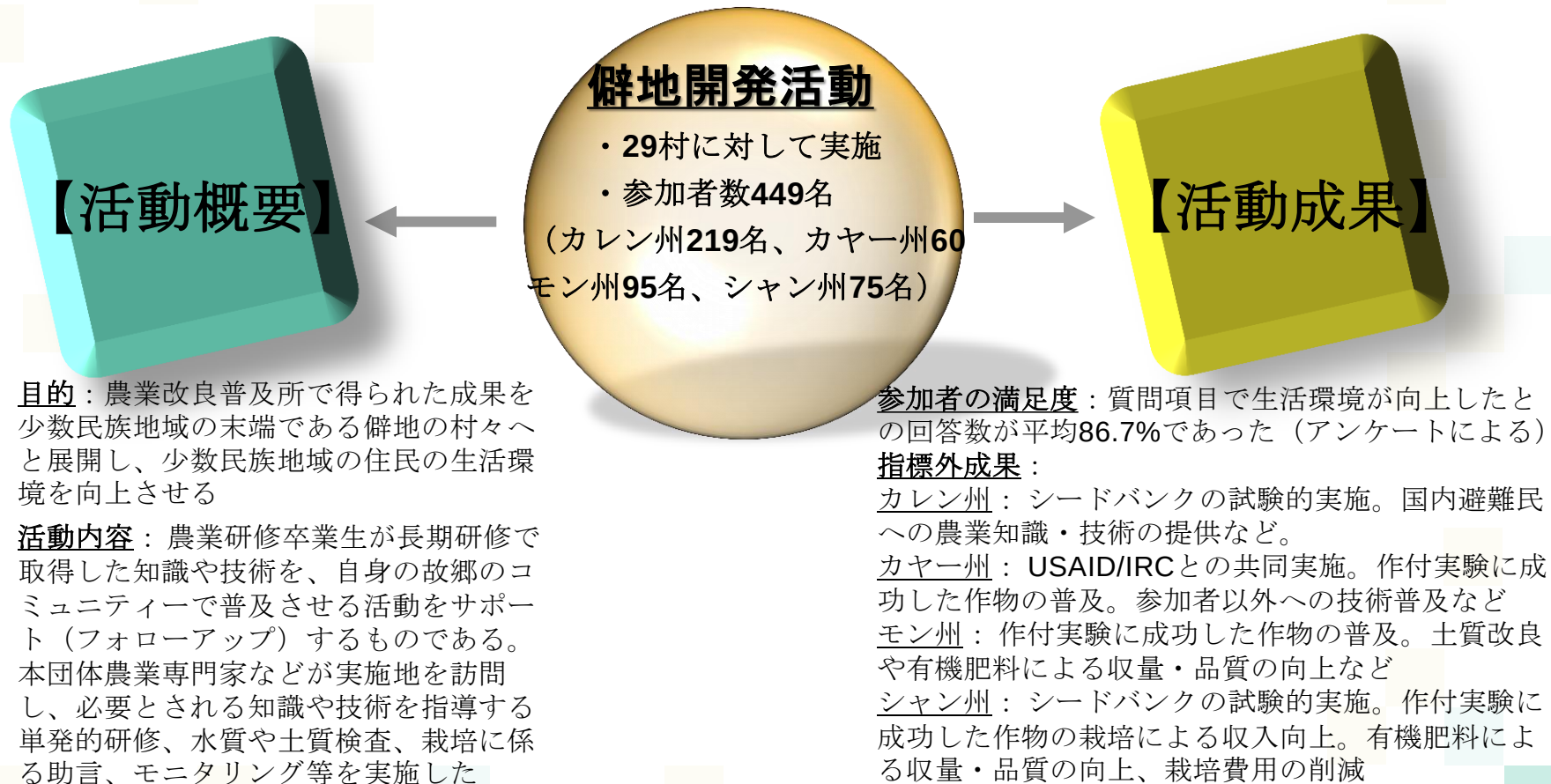


シードバンクセミナー

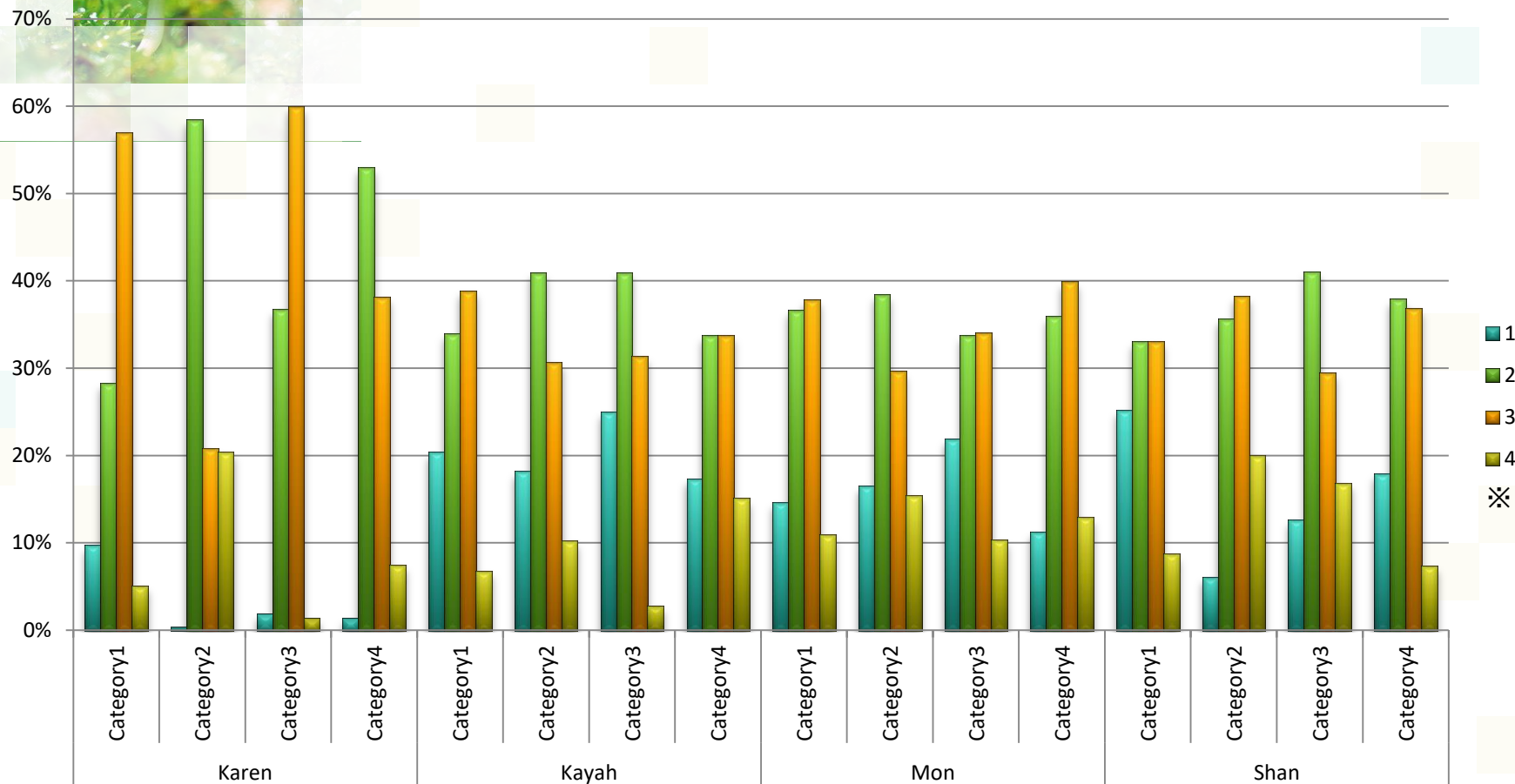


セミナー内種子紹介

4-1. 僻地開発活動細評



4-2. 僻地開発活動アンケート

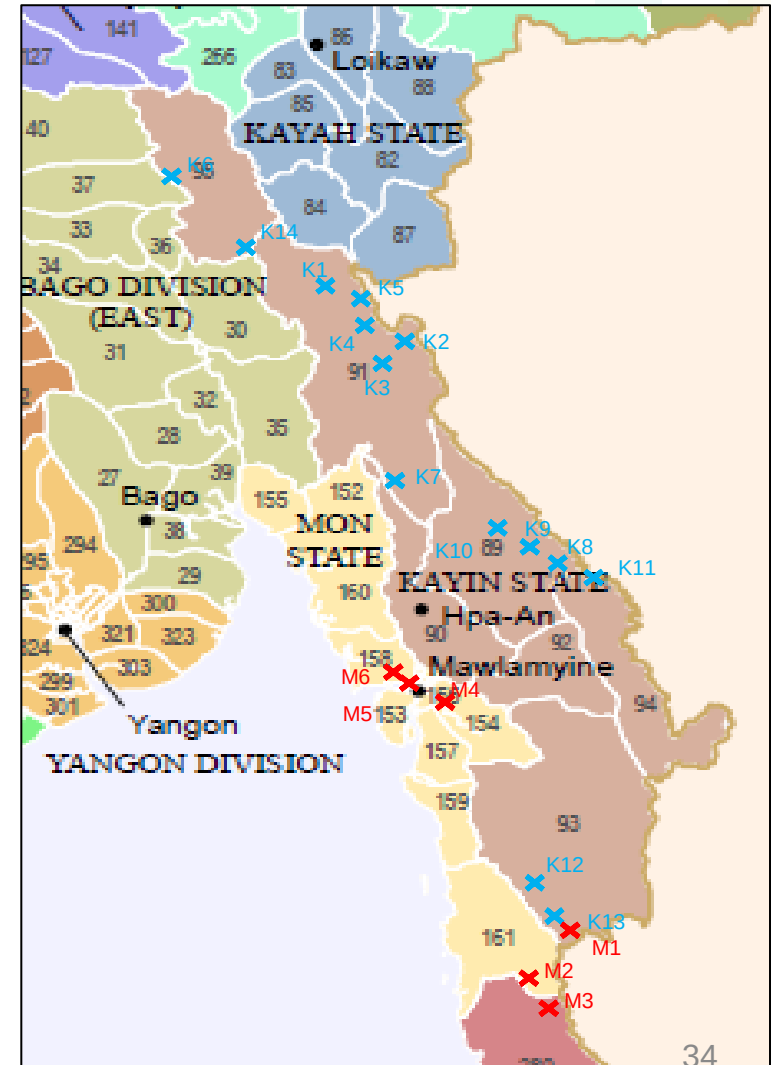


※僻地開発参加者の内160名をサンプル対象とし、Category1・知識/技術（6問。半年前と比べて農業の危険性や、資源活用法の知識が向上したかなど）、Category2・栽培環境（6問。半年前と比べて地域の農業環境に改善は見られたかなど）、Category3・生活環境（5問。半年前と比べて貯蓄の有無や労働環境に改善は見られたかなど）、Category4・満足度（5問。半年前と比べて地域コミュニティの連帯感や、現在の生活に向上は見られるかなど）について質問を行い、※4段階のスコアリング形式のアンケート（4：とても改善した⇔1全く変わらない）により、生活向上の有無を判断した。集計した結果、僻地開発活動参加以前である半年前より、改善を示す2～4のスコアを付けた者は4州計86.07%におよび、またほぼ全ての地域・項目で8割以上が半年前より改善したと回答した

4-3-1. 実施村別情報(1/2)

カレン州・モン州

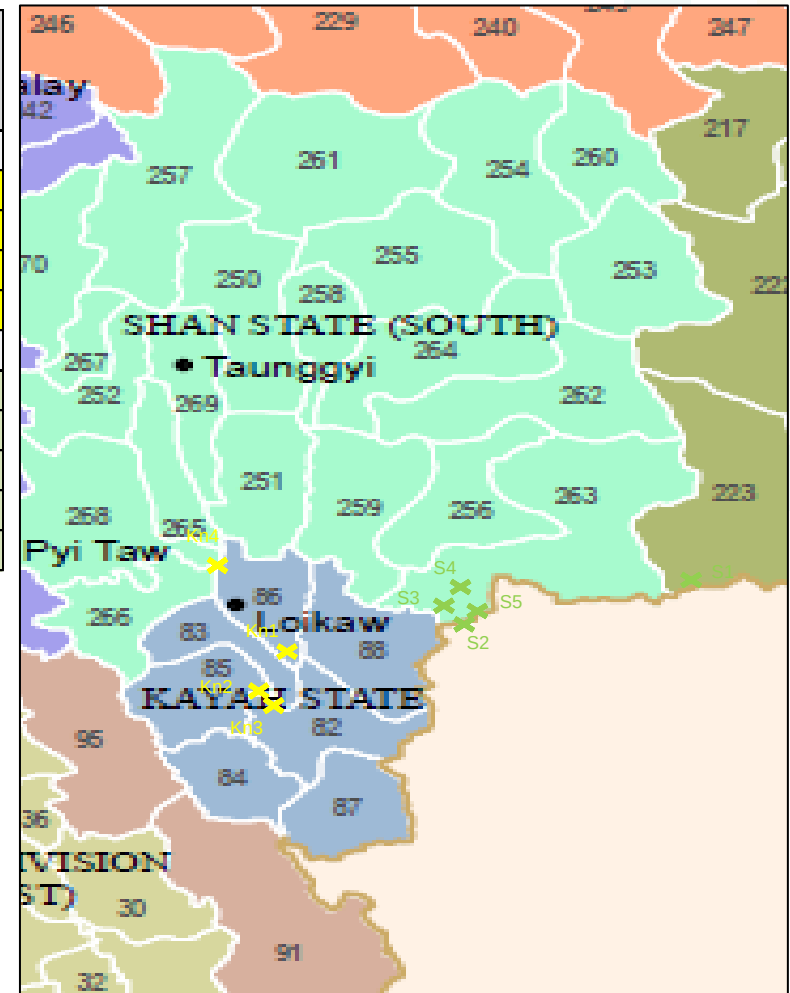
ethnic	area	village	beneficiaries	allocated land (acer)	population	number of households	map
Karen							
	Mutraw	Maung Lay Khaw	15	5	108	17	K1
		Kwee Thama	15	20	805	188	K2
		Wor Wee Lay	15	10	300	60	K3
		Toe Thein Poo	15	15	300	50	K4
		Doo Doh Hta	15	5	120	20	K5
	Taung Oo	Taw Gu	15	18	647	128	K6
	Doo Tha Htoo	Pa Nwe Kar	15	Use villagers land	1000	170	K7
	Hpa-An	Noe Pado	15	15	409	111	K8
		Wa Shu Ko	7	21	40	12	K9
		Klo Yaw Hta	40	12	48	14	K10
		Nyaliahta	10	20	138	32	K11
	Doo Pla Yar	Mae Pra	13	18	511	101	K12
		Noe Thaw Plar	15	16	240	60	K13
	Kler Lwee Htoo	Ler Wah	14	4	150	14	K14
Mon							
	Three Pagoda Pass	Ta Done	15	140	350	110	M1
	Dawei	Vae Zin	15	115	340	115	M2
	Ye	Sawanaphum	15	129	350	110	M3
	MawlaM yine	Zin Kyaik	15	360	2100	700	M4
	Powng	Wal Gyi	20	98	4500	1000	M5
		Ka Daik	15	93	500	250	M6



4-3-2. 実施村別情報(2/2)

カヤー州・シャン州

ethnic	area	village	beneficiaries	allocated land (acer)	population	number of households	map
Kayah							
Kayah	Loi Kaw	Saw Kee Daw	15	10	630	98	Kn1
	Pruso	Ka Da Lar	15	1	280	50	Kn2
		Daw Ku Kho	15	1	212	48	Kn3
	Pin Long	So Ta Shar	15	0	203	44	Kn4
Shan							
Shan	Tachilek	Loi Tai Laeng	15	40	4000	1000	S1
	Lang Khur	Ban Mai	15	25	38	9	S2
		Mae Aw Loang	15	100	230	64	S3
		Huay Ha	15	5	30	7	S4
		Kong Mong Meng	15	12	250	58	S5



4-4. 僻地開発活動写真

カレン州



Taw Gu 村での開発についての村民合同会議



Mae Pra 村での共同栽培



Ler Wah 村での共同栽培

カヤー州



Loikaw僻地開発に向けた基礎現地調査



Hpruso僻地開発に向けた基礎現地調査



KNPP/KSWDCとの僻地開発協議

モン州



Ta Done村での農業研修



Ka Daik 村での共同栽培



MawlaMyine郡での土質調査

シャン州



コミュニティー基礎アセスメント



Loi Thai Lengの調査農場



シャン軍による対象地の訪問許可書

4-5. 間接裨益者

長期・短期研修

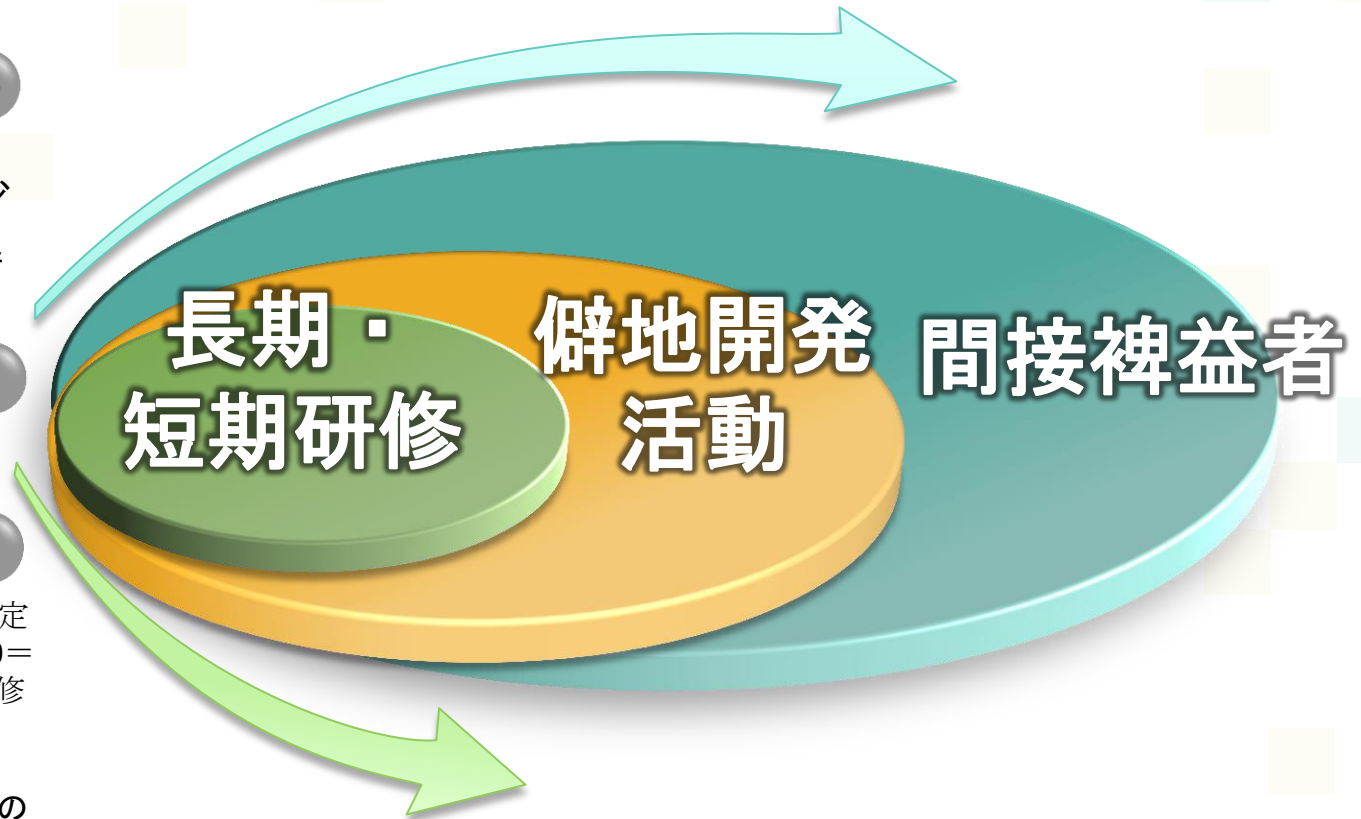
- 両研修参加者計297名
- 研修参加者がミャンマー少数民族地域においてそれぞれ10名に学んだ知識・技術普及を想定

僻地開発活動

- 僻地開発活動参加者計449名

間接裨益者

- 長期・短期研修参加者想定普及人数2970名 ($297 \times 10 = 2970$) + 僻地開発活動研修参加者449名
→ 計3,419名
- ミャンマー少数民族地域の平均世帯同居数6.45名に波及と想定
- 間接裨益者は3,419名 $\times$ 6.45 (平均世帯同居数)
→ 22,052名



長期・短期研修および僻地開発活動による
間接裨益者数は、22,052名



THANK YOU!

特定非営利活動法人 グレーターメコンセンター